

パラオだより

第12号

フルマラソンを完走しました



「ベラウ・オマル・マラソン」に出場してきました。ベラウはパラオのことで、オマルは素晴らしいという意味です。フルマラソンに備えて、アルモノグイの村で、仕事終わりに毎日走っていました。当日は朝から大雨。土砂降りの中、午後4時にマラソンがスタート。ゴールに到着したのは、タイムリミット（6時間）の9分前でした。沿道から国籍を問わずたくさんの人が応援してくれていました。

地域と文化

茶道体験教室

京都出身の隊員と協力して、アルモノグイ小学校で茶道体験教室を開催しました。正式な茶道の道具一式を使って本格的に抹茶を点てました。子ども達にただ抹茶を飲んでもらう授業では面白くないと考えたので、クイズを出しました。



「抹茶を飲む前に器を回さないといけないのはなぜでしょう」というクイズでした。子ども達からは「願いを込めるため」「祖先を敬うため」など、ユニークな回答がたくさん飛び出しました。子ども達は初めての抹茶の味に目を丸くしていました。今後も色々な日本文化紹介教室をやっていこうと思います。

卒業式

6月20日に卒業式が行われました。アルモノグイ小学校からは4名の8年生が進学していきました。ゲストスピーカーとして前大統領が招かれていました。会場は学校ではなく、ビーチ近くの公民館のような場所で行われ、関係ない地域の人もみんな参加していました。式の流れ自体は日本の卒業式とあまり大きく違いませんが、終わった後すぐにパーティが始まるあたりが南国らしいと感じました。筒井先生はみんなの前で「北国の春」というパラオでもおなじみの演歌を熱唱しました。



Q&Aコーナー

Q.パラオ人が日本人に似ていると思ったことはありますか？

A.パラオは日本の一部だった時期があり、その際に日本人から受けた影響は今なお生活の各所に色濃く残っています。例えば以下のようなパラオ人の光景をみることができます。

- ・ラジオから流れる演歌で熱唱する
- ・家や教室に入る時は靴を脱ぐ
- ・正月にはおしるこを食べる

日本人のような価値観や考え方を持つパラオ人も少なくありません。しかしそれは40代以上の特徴であり、若いパラオ人はTiktokや洋楽を好んでいて、日本のことはほとんど知りません。それどころか、英語で話す機会が増えすぎており、最近では母国語のパラオ語がわからないパラオ人もいます。